

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100043		
法人名	有限会社 田代総合サービス		
事業所名	グループホームなごみ吉志		
所在地	北九州市門司区吉志1丁目8番42号		
自己評価作成日	平成23年4月11日	評価結果確定日	平成23年7月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年5月6日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様のことを常に優先し、家族との連携を密に常に信頼関係でなりたち地域で認められる施設を『モットー』としてとりにくんでいる施設“なごみ”です。

施設の名前のとおり、運営者と職員、利用者様が常に“和やか”な雰囲気を保っております

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣に小学校のある住宅地に位置する、2階建て1ユニットの事業所である。1階には同一法人の小規模多機能型ホームがあり、日常的に様々な面で連携が図られている。理念、及び運営方針には、「住み慣れたところで、なじみの人と、やりたいことを」、「目配り、気配り、心配り」を掲げ、全職員でその実践に努めている。入居者の「重度化」が進む中、暮らしのあらゆる場面で「介護」の視点のみならず、「医学的予防」の観点から入居者の思いやニーズを踏まえ、一人ひとりの暮らしに寄り添った支援に取り組んでいる。その姿勢は、充実した看護記録や、明確な方針、かつ詳細な記載のある「看取りの指針」に垣間見ることが出来る。特に、緊急時対応においては、日頃から医療との連携が密に図られ、現状を十分に踏まえながら、実践に即した取り組みがなされている。また階下の小規模多機能ホームでは、看取り体験があり、それを参考に、日常業務は勿論、研修やミーティング等で、重度化、終末期に向けての職員間の意識付け、介護技術向上の徹底が図られている。以上、当ホームは、現実を受け止め、自らの役割と真摯に向き合いながら、日々の仕事に誠実に取り組んでいる、今後に更に期待される事業所である。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の基本である“目配り・気配り・心配り”を常に念頭に置き、管理者と職員は理念を共有し実践にむけて、日々…取り組んでいる	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作り上げ、重要事項説明書にも明記されている。併せて当年度は「目配り・気配り・心配り」を掲げ、職員間で共有しながら実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地環境により多々、難しい点もあるが、孤立する事無く地域住民との対面時には、常に笑顔を忘れず挨拶をするように心掛けている	町内会加入や、地域のボランティアの受け入れを行う等、地域との交流に努めようとする姿勢は見受けられる。一方、入居者の「重度化」に伴い、地域行事への参加等、積極的な交流には苦慮している様子うかがえる。	地域の小学校との交流や、階下の小規模多機能型ホームとの合同文化祭で、地域住民との交流を図ることが企画されており、その実現を通して、日常的な交流に発展することを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう啓発、広報に取り組んでいる		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で利用者やサービスの実施、評価への取り組み状況について報告、話し合い、記録に残して、その都度サービス向上に活かしている	階下の小規模多機能型ホームと合同で、2ヶ月に1回、定期的開催されている。民生委員や、地域包括支援センター職員を始め、時折、家族や地域の警察官の参加が見られる。議事録からは、現状を率直に報告し、意見交換を行いながら、運営に反映させようとする姿勢がうかがえる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携に努め積極的に交流している 例(市職員からの紹介により見学者への対応) (市町村主催の研修案内に常に参加する) (地域包括支援センターとの情報交換)等	入居者との散歩の際、区役所の出張所を訪れる等、日常的に声を掛け合う顔の見える関係が築かれている。また施設長が、市主催の研修会の講師を務めたり、福祉サービス相談員の訪問を受け入れる等、積極的に緊密な連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における金氏の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束について、禁止の対象となる具体的な行為について、正しく理解しており、それは、理念、及び研修を通して、徹底されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修により、虐待防止についての事柄を学び、プロの介護者としての意識を常にふまえ利用者に接しており、職員一同“虐待ゼロ”に常に心掛けている		

福岡県 グループホーム なごみ吉志

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それを活用、支援している	現在、制度の利用者があり、機会あることに職員への説明を行っている。外部研修にも参加し、資料を揃える等、職員間に周知を図りながら、必要に応じて活用出来るよう努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの運営理念を利用案内時に説明。又・・・文章をホームの見えやすい場所に明示し利用者や家族が閲覧できるようにしている		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情などを受け入れる窓口を設けており、家族の意見を尊重することでケアの改善に努めている。また、家族会を開いたり運営推進会議にも参加して頂き、意見交換をしている	相談苦情窓口の設置と周知や、家族会の開催等、積極的に意見収集の場・機会を設けている。また家族来訪時や、運営推進会議の際に、更には事業所便りの送付を通して、報告を行い、コミュニケーションの充実に努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングや勉強会を開き、意見交換、情報提供、ケアの改善などを話し合う事で業務改善、運営をスムーズに行えるように努めている	ミーティングは、月に1回、全職員参加で実施している。提案や意見交換がなされ、管理者は、運営に反映させるよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間、シフト作成については負担を少なくし、職員の心身面の健康を考慮。また昇給、ボーナス、福利厚生と働きやすい環境作りに努めている		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用にあたっては年齢や性別の制限はしてない。また、事業所で働く職員には個々の能力を活用できるような環境の場を設けている	職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢を理由に採用対象から排除することはない。採用後も、資格取得希望者には、積極的に勤務調整を図ったり、経験年数に応じて、外部研修への参加を勧める等の配慮を行っている。また休日の取得についても配慮を行い、働きやすい環境作りに努めている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内外部の研修参加を推奨し、スタッフの自己向上のバックアップをすると共に指導、責任を啓発している	ミーティングの際、常に利用者本位の支援が行われているかの振り返りを行うとともに、高齢者虐待、身体拘束、接遇等に関する内外の研修を通じて、人権教育・啓発に努めている。	

福岡県 グループホーム なごみ吉志

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為に内外の研修参加をスタッフの職種、経験、個々の必要性を尊重及び重視して計画、実施している		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会の開催、資料配布や職員同士の交流などにより、情報交換の中からプラスになる点を取り入れサービスの質の向上に努めている		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者、個々の心身状態を家族から情報収集して、状態把握を図り、個人に合った対応や考慮に努めている。また、傾聴、受容、共感的対応に努めている		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、後…家族の意見や要望を受け入れ、納得いただける説明を行い、関連書類などを提示する等、不審、不満感を除去し信頼関係を築いている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話をよく聴き、情報収集にて状態像・生活歴・入居者と家族の求めている事を把握し、施設での安定した生活が送れるよう課題を明らかにしケアプラン作成や支援に生かしている		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの方針をふまえ、入居者と職員は皆、家族であり“親”であり“子”であり“孫”であるという気持ちをもって接している		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を保ち定期的な電話連絡および毎月、お便りとして心身状態や生活関連の情報を送付し、入居者の現状態が常に把握出来る工夫をしている		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人の来訪歓迎、入居者の好みや趣味などを把握し応じた対応考慮。また居室内の環境(本人の馴染みの家具や物品、空間)維持に配慮、支援できるように努めている	家族や知人の訪問の実現に努めたり、外出時に、努めて馴染みの場所や、懐かしい場所を選ぶ等の配慮を行っている。	

福岡県 グループホーム なごみ吉志

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度、認知度、身体状態を常に職員が把握し利用者間の調和、トラブル防止に努め利用者の関係がうまく図れる工夫に努め支援している		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去、他施設への移動後も電話連絡、その他フォローを行い家族との相談、連絡維持している		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの人格を尊重し、本人の能力に合わせた対応・・・また身体面の安楽を常に重視しながら傾聴、受容、共感を常に心にとめている	アセスメントは、センター方式を活用し、その丁寧な記載内容から、一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握し、その人らしい暮らしの支援に努めていることがうかがえる。日々の暮らしから、新たに汲み取られた思いについては、ミーティングを通して共有が図られている。また困難な場合については、その都度、家族と話し合ったり、本人の表情や態度から、本人本位に検討している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴、背景、職業、経験を把握しメモリーケアに努めている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の生活パターンを把握し、メモリーケアに努めている		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の介護状態、家族の要望や意見を反映させ、月に一度のカンファレンス、ミーティングに於いてアセスメントにて評価、課題分析して介護計画を作成している。合わせて心身状態の大きな変化に於いては、臨機応変に職員間で話し合い、検討の場を設けている	アセスメントを基に、家族の意見を反映させ、職員間で話し合い、現状に即した計画を作成している。見直しについても、定期的、及び状態変化に応じて、適時なされている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に残し入居者の心身状態及び変化など、職員間で記録内容を共有し業務に反映させ、それを基に介護計画、ケアの見直しに活かしている		

福岡県 グループホーム なごみ吉志

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出および外泊や個々に合ったりハビリ、室内外でのレクリエーション、医療連携、その他多くの柔軟な支援に取り組んでいる		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防署、警察署の指導、協力を受けたり、市民センターに必要時、パンフレットを貼付。また公園での散歩、スーパーでの買い物などと地域資源の存在を有意義に活用させてもらっている		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診と合わせて、身体状態により臨時的受診、又その他の専門医との連携と受診を維持して常に入居者の健康管理に努めている	かかりつけ医については、本人・家族の希望を尊重し、一人ひとりの状態に応じた往診、通院支援を行っている。また歯科医との連携により、口腔ケア、摂食・嚥下訓練の助言を受けている。必要に応じて、専門医への受診も行い、安心で適切な医療が受けられるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、3カ月毎の計画作成及び、介護者に介護のポイント、対応協力と指導を心掛けている		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報提供、交換や相談できる状況状態を確保しており、施設関係者は率先して本人のお見舞いを行っている。また、出来るだけ家族の負担軽減の為、職員が雑務対応に努めている		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	週末に関する対応方針を定め家族、医師、看護師を交え、話し合いのできる状況を確保しており、入居者の終末期を安楽に過ごしていただけるように職員の指導を含め、“チームケア”に努めている	重度化や終末期に向けて、事業所として、明確で詳細な指針を定めている。これを基に本人の意思確認は行われ、家族や医師、職員間で話し合いを行いながら、方針の統一が図られている。また研修を通して、看取り体験のある階下の小規模多機能型ホームから、助言を得る等、真摯に取り組んでいる姿勢がうかがえる。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修参加、マニュアルを把握及び勉強会を開き職員の意識徹底、事故発生への対応に努めている		

福岡県 グループホーム なごみ吉志

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年に2回)消防署の協力と共に、避難訓練を実施し避難先の確保、とっさの対応確認などの見直し。また講習参加やミーティング時に公開して職員間に浸透意識させている	年2回、階下の小規模多機能型ホームと合同で避難訓練を実施しており、内1回は消防署の立会のもと指導を仰いでいる。職員に東日本大震災支援への参加者があり、その体験を踏まえ、現在、災害の状況や、入居者個々に応じた対策を検討中である。	現在、対策の見直しを図っていることを踏まえ、地域住民との協力体制の構築を期待したい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の徹底に努め、入居者を尊重する気持ちを大切にすると共に介護者としての守るべき態度を認識し、個人情報保護についての把握をしている	ミーティングや研修を通して、一人ひとりの権利や、人格を尊重することを再確認し、支援に反映するよう努めている。併せて、「個人情報保護」に関して、適切に理解し、ファイル等、個人情報記載の書類の取り扱いについては、十分に配慮している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の尊厳を重視し個々の身体状況に応じた対応に努め、コミュニケーションを図り本人からの訴え、要望を尊重し、受容…受け入れている		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の心身状態を尊重し、個々のペースに合わせて対応している。(リハビリ、生活動作、排泄…その時々入居者の感情、気分に合わせて)		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師による定期的施設への出張にて、カットを実施。また、常に洗濯したての清潔な衣服の着衣ができるよう配慮している		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合った手伝い(食器、おぼん拭き、食材料の下準備)を依頼し、身体機能に合わせた食形態の配慮や介護実施、また入居者全員が顔を合わせ職員と会話しながら楽しみ食事している	入居者の「重度化」が進む中、季節の食材を活かした献立や、入居者一人ひとりの状態に応じた食事形態での提供等の配慮を行いながら、職員が会話を盛り上げ、和やかな雰囲気を出し、楽しく食が進むよう努めている。また嚥下低下予防の一環として、食前に嚥下体操やアイシングマッサージを実施している。入居者は、献立書きや、食材の下ごしらえ、食器拭き等、各自出来る範囲での役割を担っている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成の献立により、必要カロリーの確保維持が出来ている。また、食事摂取表に手入居者の食事、水分摂取量を把握し状態に合わせた対応にて個々、入居者の管理徹底が出来ている		

福岡県 グループホーム なごみ吉志

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科医の往診にて治療実施中。また義歯の消毒管理、口腔ケアに介助者の異常チェックと、常に清潔管理に努めている		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時トイレ誘導にて便器での自然排泄できるよう、排泄パターン表での個々の状態を把握、実施中	排泄チェック表により、一人ひとりのパターンを把握するとともに、声掛けや各自の身体状態に応じた方法で、トイレ誘導を行う等、排泄の自立支援に努めている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	マニュアルを熟知しており実践している。繊維質食材、水分摂取、運動、マッサージにて腸の蠕動促進及び緩下剤との薬…対応など		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	更衣室、浴室の室温調整及び安全確認の把握に努め、入居者の事故防止に努めている。また、定期的入浴はもちろん本人の要望や身体の不潔状態が生じたときは、その都度適宜対応している。それと入浴前のバイタル確認の徹底に努め入浴の対応を考慮している	基本的には、週3日の入浴であるが、本人の要望や体調に応じて、その都度、柔軟に対応している。また安全で快適な入浴となるようリスクマネジメントは徹底されている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の採光調節、室温調節、心地よい寝具、寝衣(日光に当てる、常に洗濯した清潔寝衣)に気を付けている。また、精神的に穏やかな状態の安定維持を図り、夜間の安眠につなげている		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の準備、内部介助時は複数の職員でチェックをして与薬者は声を出して「日付、名前」の確認をしている。また、処方箋に目を通し、処方薬の内容を確認・把握している		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の機能に合わせた役割分担をしている(食器拭き、洗濯たたみ、洗濯干し、掃除、園芸)また、外出希望のある方には出来るだけ希望に沿ったり、天候に合わせて戸外散歩…また年間行事を作成して毎月、催事や誕生会など開催中		



福岡県 グループホーム なごみ吉志

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>NO.50と重複するが、天候に合わせ近隣の散歩、買い物、戸外でのレクリエーション(花見など)また、ドライブなど実施している</p>	<p>一人ひとりの希望を踏まえながら、その日の体調や天候に応じて、散歩、買物の出掛けしている。また戸外レクリエーションや、草取り、ベランダでの日光浴等、日常的に気分転換が図れるよう努めている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者の心身状況により施設での管理となっている。必要な買い物など家族に相談、了承を得て買い物同行出来る入居者は一緒に、困難な方には職員が買い物するなど実施している</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話の取り次ぎや本人が外部に連絡する時などはプライバシーを保ち快く対応している(機能維持の入居者に限り)</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に関する作品や生花を飾って、家庭的な雰囲気の中で…。また、出来るだけ生活感のある空間作りに努めている</p>	<p>居間兼食堂は、採光良く明るい。和室コーナーを始め、入居者全員が、共にくつろげるよう大きなテーブルやソファが配され、ゆったりとした空間が確保されている。ソファには、手作りのクッションが並べてあり、家庭的な雰囲気を感じる。台所は、対面式であり、調理の様子が五感を通して味わえる等、生活感がある。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>疲れて休みたいときは自室で過ごしラジオを聴く方、また高齢により終日に於いてベッド臥床での休息…合わせて皮膚トラブルなどで耐圧分散など、個々の状態に応じた居場所の確保。また…唄ったり、食事したり、レクリエーションにと入居者が楽しく過ごせる場所が確保できている</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の好み、使い慣れた家具、思い出のある写真を飾ったり、カレンダー設置。また、室温、採光、外部音の遮断などの配慮をしたり、防災カーテン、火災探知機などを設置し安全・快適に過ごせるように努めている</p>	<p>各居室は、大きく窓が取られ自然光が差し込み明るい。室内には、使い慣れた家具を始め、好みのもや生活歴を感じさせるものが随所に見られ、本人本位の空間作りに努めている様子がうかがえる。またベッドについても、各自の身体機能に合わせたものが持ち込まれている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室入口に個人の名前が分かる様に提示している。また、浴室、トイレなどの明示に努めたり“バリアフリー”の施設内での設備徹底に配慮している</p>		